

郷土資料館だより

Vol.27. No.3

2004. 3. 20

三島の文化財史跡と名勝めぐりMAP

楽寿園
(国指定天然記念物・名勝)
楽寿館・楽寿の間絵画
(県指定絵画)

明治23年小松宮別邸として造営され、
帝室技芸員による装飾絵画が残されている。



蜘蛛が淵
伝説の残る神秘的な滝。かつて村の雨乞いの記りを行なっていた。



山中城跡(国指定史跡)
小田原北条氏の西方防備の拠点。障子堀が特徴的な戦国時代の山城。

錦田一里塚(国指定史跡)

江戸から28番目の一里塚。損傷が少なく、街道の両側に残る貴重な史跡。



太田家累代の墓

玉澤妙法華寺は、太田道灌の子孫で掛川藩主代々の菩提寺。



- 玉澤妙法華寺
- 庫裡(市指定建造物)
- 鐘楼(市指定建造物)
- 伽藍(市指定建造物)
- 金剛力士像(市指定彫刻)

屏風岩

屏風状の岩石群と湧水、植生などの自然と「谷田山薬田碑」が刻まれている。



三嶋大社(国指定重文建造物)

本殿・幣殿・拝殿(国指定重文建造物)

古来から三島に鎮座する神社で、源頼朝をはじめ、多くの武将からも崇敬された。



三島の文化財に指定された史跡や名勝を訪ねてみましょう

〈ふるさと講座「三島の文化財めぐり」(平成15年10月23日開催)より〉

企画展 竹の今昔物語 報告

開催日 平成15年11月16日(日)～平成16年2月22日(日) 入場者数7,594名

今回の企画展では、竹についての従来の炊事や運搬、農業や漁業で使われてきた竹製の道具、そして傘や籠作職人の紹介から、現在の放置竹林問題と今後の竹の有効活用についてなど、竹の今昔と未来を紹介しました。来館の皆様も竹への関心を新たにされたようです。



わかふじ国体で注目された竹のオブジェ(篠塚治雄氏作)



竹製の漁労具と沼津垣

竹でビルが建つ?!「竹筋コンクリート」

竹筋コンクリートは、昭和戦時下で鉄が軍事優先で民間にまわらない頃に代用品として作られました。本来鉄筋で作る建築物を、モウソウチクを縦に割り、鉄筋同様に並べてコンクリートを流し込んで作りました。

実用性の点では、鉄材にくらべれば竹材の強度は弱く、またコンクリートのアルカリ分に弱いという欠点があります。鉄筋建築の代用としては適しませんが、自家で塀や温室の支柱、溝のふたのようなものを作るには軽くて丈夫で有効のようです。



竹筋コンクリート破片 (富士竹類植物園 所蔵)

次回企画展 「百年前に夢見た未来」 4月25日～7月4日

いよいよ薄型のテレビ、いわゆる壁掛けテレビが家庭の中にまでまわりをみせてきました。またコンピューターも広く普及し、人間型ロボットも二足歩行だけではなく、踊ることもできるようになり、「鉄腕アトム」の世界に近づいてきました。かつて「未来」を描いたイメージが、いよいよ現実となってきました。

次回の企画展示では、100年前の20世紀の幕開けのときに、100年後の世界がどのようなになるか想像していたものを、当時の新聞記事と現在の資料で比較してみたいと思います。



家庭の薄型テレビ



未来に夢を馳せる博覧会 (大阪・万国博覧会 1970年, トーゴ共和国発行切手)

ふるさと講座報告

三島の文化財めぐり

開催日 平成15年10月23日(木)
 参加人数 30名
 講師 齋藤 宏 氏 (三島市文化財保護審議委員長)
 コース 楽寿園駅前口出発→玉沢妙法華寺:忠霊殿→鐘楼→
 祖師堂、本堂、仁王像(副住職から説明)→妙法華
 寺宝物館→山中城跡(箱根旧街道石畳の説明)→岱
 先出丸→西の丸(昼食及び休憩)→三島暦河合家→
 三嶋大社宝物館及び本殿、幣殿、拝殿、舞殿の見学
 →楽寿園駅前口到着



妙法華寺



山中城



三島暦河合家

今回の講座は企画展「三島の文化財紹介」に合わせ開催されました。

玉沢妙法華寺忠霊殿前では屋根の形について解説があり、「最後に見学する三嶋大社の屋根の造りを質問しますのでよく覚えていて下さい」との宿題が出されると、参加者は真剣な面持ちで講師の解説に耳を傾けていました。山中城跡、三島暦河合家、三嶋大社など、いつも見慣れた史跡も文化財という違った視点で見学することができたと思います。

目的地に向かうバス中では、講師から見学のポイントや指定文化財についての話をしていただき、見学の際に大いに参考になったのではないのでしょうか。

竹の今昔物語

開催日 平成16年1月28日(水)
 参加人数 30名
 講師 富士市観光ボランティアガイド
 柏木治次 氏 (富士竹類植物園事業本部長)
 コース 楽寿園駅前口出発→竹採公園(富士市観光ボランティア紹介)→永明寺→滝不動(いぼとり不動尊)→見返し坂→医王寺→親水公園→吉永公民館(昼食及び休憩)→富士竹類植物園(園内の説明と見学)→研究資料館(特別展「日本の竹資源を生かす」)→楽寿園駅前口到着



竹採塚(富士市比奈)



見返し坂(富士市)

このふるさと講座は、企画展「竹の今昔物語」に合わせ開催されました。最初に竹取物語かぐや姫伝説発祥の地とされている富士市比奈の竹採公園周辺を、富士市観光ボランティアガイドの方々の案内により訪ね歩きました。伝説とロマン



富士竹類植物園(長泉町)

の地を見学した後は、実際の「竹」についての学習ということで長泉町にある富士竹類植物園を訪ねました。講師の柏木さんが園内を案内しながら数々の竹について分かりやすく解説してくださり、また竹の今後の活用についての展示を見学しながら、あらためて「竹」の奥深さを知ることができました。

企画展関連講演会 報告

平成15年11月30日(日) 会場 Via701

講師 柏木 治次 氏(富士竹類植物園事業本部長)

テーマ 「竹の現状とこれからの活用について」 19人

(要旨) 竹は古くから生活の中に溶け込んでいましたが、この30年くらいに身の回りから姿を消していきました。またタケノコ栽培で広めたモウソウチクは安価な輸入品に押され、採られることなく山に放置されてしまいました。

放置された竹林は、地下茎により周囲へ拡張し、特に隣接する茶畑や植林地へは早く、産業へダメージを与えます。竹林の中心の古い竹は立ち枯れと根腐りで地盤が弱くなり、土砂災害への懸念が広がっています。

また竹は、数十年～百数十年の周期で開花します。箱根では昭和10年ごろ、篠竹が一斉開花し実をつけました。ところがその実をネズミが食糧として大繁殖し、林業などへ深刻な損害を与えました。

竹林は間伐することにより、周囲への拡大を抑え、材質も安定し、タケノコも味がよくなります。間伐には、山中での運搬という課題もありますが、粉碎するという方法も考案されました。

今後、粉碎されたチップから、紙や家畜の飼料へと応用し、地産地消できる製品やシステムの整備が望まれます。



講師 柏木治次氏



開花した竹の花と実

ワークショップ報告

三島暦を刷ってみよう

開催日/9月23日(火・祝日)

講師/河合 龍明 氏

会場/郷土資料館2階

参加者/46名



江戸時代や明治時代に実際使われていた版木で暦を刷ってみようということで行われました。秋分の日になんで慶応4年と明治2年の「秋分」の部分の刷ってもらいました。ローラーに墨を付け、版木に塗ったあと、和紙をのせて上からバレンで擦るという作業を体験してもらいましたが、なかなか思ったようにはいかず、昔の暦師のように簡単には刷り上らなかったようです。

手作りおもちゃで遊ぼう

開催日/11月23日(日)、12月23日(火・祝日)

講師/館職員

会場/郷土資料館2階 参加者/26名(2日間)



手軽に簡単にできる昔ながらのおもちゃということで、割り箸鉄砲、割り箸ケンダマ、ブンブンごま、ピヨピヨ笛の作成にチャレンジしました。割り箸やたこ糸、フィルムケースなど身近にある材料を使って簡単に作ることができます。最近では手作りのおもちゃがあまり見られなくなりましたが、参加者にとっては楽しいひと時となったようです。



親子で楽しめる手作り玩具

修善寺 麦わら細工

麦わら細工といえば、ホテルかごや虫かごを作った思い出のある方も多いことでしょう。工芸としての麦わら細工は、昔から大森（大田区^{きのさき}）、城崎（兵庫県）が有名でした。

伊豆半島でも温泉郷修善寺に、麦わら細工の技術が残されています。技法を継承した辻農吾氏が昭和40年代に麦わら細工の店「農^{あした}」を開き、麦わら細工を製造販売してきました。

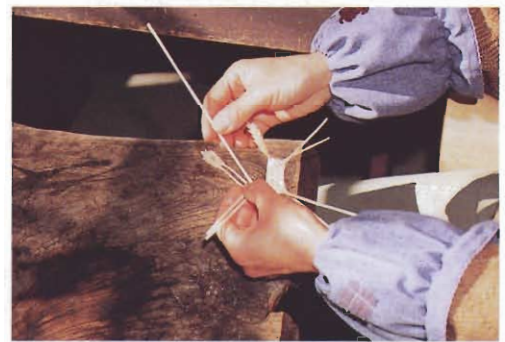
修善寺麦わら細工は、染色した麦わらの管の部分を開き伸ばして紙状にし、家紋や市松模様などをデザインして桐箱に貼った文箱、宝石箱などが作られました。近年は花や干支の動物を貼った色紙に人気があるようです。

麦わら細工の技法は貼り付けるほかに、数本の麦わらを縦横に組み、折り曲げ、編みこみなどにより立体的なものを作り上げることができます。虫かご、馬などは日本各地で子供たちが昔から遊びの中で作っていたものです。とくに大森麦わら細工は、麦わら数本を細かく角度をつけて折り込む技法を用い、亀などの立体物を特徴としていました。辻農吾氏は晩年この技法を習得し、にんじん、龍など独特の作品を作り上げています。

農吾氏は亡くなりましたが、紀子夫人が店を継ぎ、訪れた人に馬、鳥、指輪などを作る体験の中で、麦わら細工の技法を伝えています。



修善寺麦わら細工



麦わらを編んで馬に

三四郎^{みよろ}人形の修復

昭和初期の素朴な張子^{はりこ}の創作人形、三四郎^{みよろ}人形は、その多くを郷土資料館で見ることができます。昨年9月に作者野口三四郎の子息野口冬樹氏より新たに11体の三四郎人形の寄託を受け、これを展示するために修復をほどこしました。

三四郎が三四郎人形を制作したのはわずか5～6年間ですが、この間に張子の技法から、和紙仕上げ、紙塑人形、木目込み、石膏、漆仕上げ、さまざまな技法に挑戦しました。その作品の多くは木型に和紙を貼り、木型を抜いて仕上げた張子の人形です。

三四郎人形の修復を手がけている藤野いづみ氏によれば、張子の技法は手間がかかる上、単純な形でなければ量産するのも大変ですが、あえて三四郎が張子の技法にこだわったのは紙の軽さにより、バランスのとりにくい動きのある姿勢を軽やかに表現することを目指したため、と語っています。

今回の修復では、表面の汚れ落とし、はがれや破損部分の充填補色を行いました。また、外れた傘やパラソルなども原作に忠実に復元しています。

これらの三四郎人形は二階展示室で見ることができます。



パラソル



眠り猫

寄贈品

平成15年9月から12月まで、次の方々からご寄贈にご協力いただきました。

大切に保存し、研究、調査、展示資料とさせていただきます。(敬称略)

木下 章 (加茂)

棒秤 1点
墨壺 1点
釣具 2点
隅木 1点



大工の実技試験用隅木見本

草間 健 (光ヶ丘)

軍隊手帳 1点
具
貯金通帳 1点
裁ち台 昭和12年 1点
ほか3点

久保野 晃 (藤代町)

箆筒 昭和15年頃 1点

市立養護老人ホーム (谷田)

市松人形 昭和40年代 1点

西田 美恵子 (西本町)

雛型 四布団 昭和12年 1点
雛型 三布団 昭和12年 1点
雛型 夜着 昭和12年 1点

野口 厚 (玉沢)

中学校教科書 昭和25年 4点

増島 淳

国分寺瓦 1点

松本 保 (加屋町)

竹の照明具 明治後期 1点



竹の照明具

渡辺 幸子 (南二日町)

ラジオ 昭和50年頃 1点
『鉄道旅行案内』昭和5年 1点

郷土資料館運営協議会委員

ご紹介

平成15年12月より2年間、運営協議会委員の方々より、資料館活動の協力や助言を頂きます。

(敬称略)

委員長 迫田 信行
副委員長 諏訪部 敏之
副委員長 山田 益美
井出 多美子
高島 政壽
原 知信
平沢 早苗
山田 修
加藤 雅功
矢田部 てるみ
渡邊 時子

近刊のお知らせ

3月下旬発売予定

図録『三島の成り立ち』

三島の古代から近世の史跡や資料をビジュアルで紹介。

(予価500円)

『三島宿本陣家史料集』16巻

13巻から続く「御大名様御旗本様並ニ諸家御家老方様附込」の最終巻。

(予価1200円)

利用案内

休館日 毎週月曜日 (祝日の時は翌日、12月27日～1月2日)
開館時間 午前9時～午後4時30分 (11/1～3/31まで)
入場無料 (但し、楽寿園入場の際、有料)



●三島駅(南口)から徒歩5分。市立公園楽寿園内

郷土資料館だより Vol.27 No.3(第78号)

発行日 平成16年(2004)3月20日
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館
〒411-0036 三島市一番町19-3
楽寿園内

TEL 055-971-8228
FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
URL: http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo

発行 三島市教育委員会